

埋没 *んん*
FUOK

山牧田 湧進



【まえがき】

※ 「注意ください」

- ・この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- ・この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。
- ・同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- ・この作品は表現の誇張、強調や省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- ・特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- ・この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

【あらすじ】

おデブちゃんなそいつのもの凄いもっこりにとてつもなく興味を惹かれていた俺は、ついに無理やりそいつをひん剥いて、その真相を確かめてしまった。

が、そこにあるのは恥丘のもの凄い盛り上がりで玉袋、それだけだった。

そこにあるはずだと思っていたちんちんが無い。

それを見た俺は思わず、玉袋の皮が引き込まれるように集まっているその窪みに指を突っ込んでみてしまうのだった。



埋
没
〇
ん
〇
ん
F
U
〇
K



「今日はちんちん生えたかな？」

俺は軽く睨みを利かせながら、いつものように図書室の一番奥の本棚の壁の隅にそいつを追い詰めた。

表向き『文芸部』、実質『何もしない部』。

部長、俺。部員、そいつ、終わり。

顧問、滅多に来ない。部室、無い。

但し、この部員数にしては広大でかつ目隠しになるような本棚の壁だらけのこの図書室を貸し切りで部活動に使用する権利を得ていた。

元々、部員数が少ない部だったが、廃部とか厳しいことは言われずに済んでいる。

逆に言うと、先輩が抜けて、後輩が入って来なかった時点で消滅確定。だから、急ぎで無ければ廃部とかキツイことを言う必要が無い。

どのみち、俺とそいつが卒業したらこの部は無くなる。というか、本来なら、もっと前に無くなった。

俺らは中途入部。いずれ部員数がゼロになることを知ってたうえで転入した。

ここまで、まるであたかも俺とそいつが仲良く結託してそうしたかのような物言いをしてきたが、実際は全部俺が企てて、そいつは俺が無理やり引き込んだ。

言葉が悪いが、半分脅しで。いや、25%くらいにしておいてくれ。

そいつだって、イヤイヤ言いながらも、ずっと俺に付いて来たんだ。

俺が脅しで言わせてた？ かもしれないが、うーん、そうだな、この点に関してはどうちつと後にさせてもらって良いか？

ちよっとばかり特殊な事情がある。



(こちらは体験版です)





埋没〇ん〇んF U〇K

OpusNo. Novel-078
ReleaseDate 2021-08-05
CopyRight © 山牧田 湧進
& Author (Yamakida Yuushin)
Circle Gradual Improvement
URL gi.dodoit.info

個人で楽しんでいただく作品です。
個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、
共有、アップロード等はしないでください。
(こちらは体験版です)